

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和8年1月1日～令和8年7月5日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和7年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 8 年	111	20	2	40	67	129
令 和 7 年	133	28	3	62	62	155
前 年 同 期 比	-22	-8	-1	-22	5	-26

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	8	7.2%	0	0	5	4	9
	後立山	37	33.3%	12	1	9	26	48
	その他	7	6.3%	1	0	6	1	8
計		52	46.8%	13	1	20	31	65
中央アルプス		9	8.1%	0	0	3	7	10
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		14	12.6%	4	0	4	8	16
その他の山岳		36	32.4%	3	1	13	21	38
計		111		20	2	40	67	129

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	34	30.6%	8	0	28	0	36
転 倒	9	8.1%	0	0	9	0	9
病 気	7	6.3%	3	0	0	4	7
道 迷 い	23	20.7%	0	0	0	33	33
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	3	2.7%	2	0	1	0	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	11	9.9%	2	0	0	9	11
不明・他	24	21.6%	5	2	2	21	30
計	111		20	2	40	67	129

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	1	5	6	30 34.1%	0	0	0	2	2	16 39.0%	8	46 35.7%
20代	2	0	2	13	17		0	0	1	4	5		22	
30代	1	0	2	4	7		1	0	1	7	9		16	
40代	4	0	6	6	16	31	1	0	1	1	3	15	19	46
50代	5	0	5	5	15	35.2%	1	0	7	4	12	36.6%	27	35.7%
60代	2	1	7	8	18	27	2	0	2	2	6	10	24	37
70以上	1	1	3	4	9	30.7%	0	0	2	2	4	24.4%	13	28.7%
計	15	2	26	45	88		5	0	14	22	41		129	
比 率	68.2%						31.8%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（6/29～7/5）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
6月30日	入笠山	女	61	無事救出	道迷い	単独で入笠山周辺を登山中、道に迷い、行動不能。
6月30日	北アルプス 針木岳	男	67	死亡	不明	単独で扇沢から針ノ木岳へ入山し、行方不明（6/30認知）。7/3捜索中に遺体で発見。
6月30日	北アルプス 白馬岳	男	68	無事救出	疲労	単独で白馬大雪渓を登山中、疲労のため、行動不能。
7月2日	北アルプス 白馬岳	男	68	無事救出	疲労	単独で白馬大雪渓を下山中、疲労のため、行動不能。
7月3日	北アルプス 前穂高岳	男	66	負傷	滑落	2人パーティで前穂高岳から下山中、スリップし、滑落、負傷。
7月4日	北アルプス 大天井岳	女	52	負傷	転倒	3人パーティで大天井岳から槍ヶ岳へ向け縦走中、スリップし、転倒、負傷。
						上記遭難現場写真
7月5日	ハケ岳 天狗岳	男	86	無事救出	道迷い	単独で天狗の奥庭付近を登山中、道に迷い、行動不能。

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、7件の山岳遭難が発生しました。

そのうち、白馬大雪渓での遭難は、単独で猿倉から入山した遭難者が、登りと下りでそれぞれ救助要請を行い、2度救助された遭難事案です。

2回とも疲労による遭難ですが、1度目（登り）の遭難は、午後9時ころ、「夜になっても宿泊予定の登山者が到着しない」との山小屋からの情報提供により認知し、標高約2,650m付近で、疲労のため行動不能となった遭難者を、遭対協救助隊員が宿泊予定の山小屋へ収容しました。

2度目（下り）の遭難は、2日後の午後2時半ころ、標高約2,250m付近を下山中、疲労で再び行動不能に陥り、知人を介して救助要請を行いました。県警山岳遭難救助隊員が、ストレッチャーで白馬大雪渓を搬送し、猿倉まで背負い搬送により、救助しました。

この遭難の大きな要因として、「根本的な体力不足」があります。体力不足は、行動が遅延するだけでなく、疲労の蓄積により集中力の低下を招き、滑落やスリップ等の遭難にも繋がります。「登りたい山」が必ずしも「登れる山」ではありません。

これから夏山最盛期を迎えるにあたり、長野県内の登山を計画されている方も多いかと思いますが、「計画」、「装備」、「体力」を充実させ、ご自身のレベルに見合った山選びをお願いします。